大正名作選

臼井吉見

• 中學生全集 •

中學生全集

22

大正名作選

筑摩書房

編者略歷

一九〇五年、長野縣に生る。
松本高等学校、東大國文学科卒業。
評論家、『展望』編集長。

昭和二十五年十二月十五日印刷
昭和二十五年十二月二十日發行

大正名作選
定價 百七拾圓

編者 臼井吉見
發行者 古田晁 東京都文京區白山町九
印刷者 山元正宜 東京都文京區柳町二六

CHIKUMA 中学生全集

發行所 株式會社 筑摩書房
東京都文京區白山町九
電話小石川(〇〇五一)番(編集)
(〇〇五七)番(編集)
振替口座東京一六五七六八

三晃印刷株式會社印刷・八千代製本

目次

最もよき夕……佐藤春夫……三
清兵衛と瓢箪……志賀直哉……三八
正義派……志賀直哉……四五
海彦山彦……山本有三……五五
だるま……武者小路實篤……七七
トロッコ……芥川龍之介……九三

鼻……芥川龍之介…一〇一
小さき者へ……有島武郎…一一三
入れ札……菊池寛…一二四
出世……菊池寛…一二三
分配……島崎藤村…一六九
読者のために……二〇五

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

大正名作選

裝　幀・庫　田　毅

表紙の窓・雜誌『白樺』創刊号の表紙絵

佐藤春夫

最もよき夕

どうして魚の口から一枚の金が
出たか?! という神聖な噺

I

むかしむかし。あの氣高い美しいさうして愛嬌のある処女マリアの父無し子で、また同時にあの唯おひとりの神の血すぢ正しいあととり息子であったお方、イエス・キリストが、御自分の父の御考へをひとりでも沢山の人に知らせて、この苦しい世の中でさまざまに困ってゐる人たちを慰め、そのうへ、御自分の父があれほどまでに建てたがっていらっしゃるあの、人々の心を固い礎にして建てられるといふ或る不思議な立派な町を、どうかしていつかは一度としらへて見たい。せめては、それの手初めとして、その固い礎を置けるだけの地ならしだけでも人々の心のなかにして置きたい。さうしてそれをお父さんのお目にかけたい。といふその孝行なお考へから、十二人のお弟子たちと一緒に人々のあひだを遍歴して居られた頃の事です。さうして、イエス・キリストとそのお弟子たちとが、カペナウンといふ町に足をおとどめになって居られた時のことです。

それはちやうど税金を納める季節でありましたから、税金を集める役人たちは、このあたりの町や里へ廻って來て、家々を訪ねては、

「私たちは王様の役人だ。税金をとりに來たものだ。税金はもう納めたか。早く納めて貰ひ度い。」

かう言って一軒一軒と人々からそれをとり立ててゐるところでした。

このわれわれの地球では、どこの町とても同じことで、このカペナウンといふ町にも貧乏な人と金持の人とがありました。王さまのお役人たちの顔を見ると、何も言はれないうちから直ぐ、込入った錠前のある頑丈な匣のなかから金や銀を何枚もとり出して、王さまのお役人たちの手にそれを渡す人があるかと思ふと、また片一方には、ごく少しばかりの税金がなくって、幾度も幾度も王さまのお役人に無駄足をさせて、それでもまだ税金をお役人たちに渡すことが出來ないといふやうな人たちもあります。王さまのお役人たちは直ぐ税金を受け取れるやうな人たちには丁寧に挨拶した代りには、容易に税金を出せないやうな人たちに対してはなかなか不機嫌なのでした。それはその人たちが早く金を渡さないからといふよりは、早く金を渡せないほど貧乏であるといふので、その貧乏をひどく卑しんで居たからです。

或る日のことでありました。

「私たちは王さまの役人だ。税金をとりに來たものだ。税金はもう納めたか。早く納めて貰ひ度い。」と、さう言ひながら、王さまの役人たちは、イエス・キリストのいらっしゃる家へ廻って來ました。

そこで、その家の主でまたキリストのお弟子の一人であるペテロといふ人が答へますのには、

「イエスさまとそのお弟子とは何の貯へも無い者でございます。ただ樂しい鳥のやうに、旅から旅をお歩きになって、お教へを世間へ弘めて居られるのでございますから。」

すると役人がいひますには、

「それはわれわれも知ってゐる。けれども貯へは無くとも税金を納めて貰はなくては困る。樂しい鳥のやうであらうと、苦しい鳥のやうであらうと、お前たちは鳥ではないのだ、人間なのだから。聞けば、お前がたの先生といふ人はよほど風変りな、奇妙な、また不都合な、理窟に合はないことを言ふ人で、利子をとって金を貸してはならないとか、儲を考へて商ひをしてはいけないとか、後のことを考へて金を溜めてはならないとか、金持よりは貧乏の方がいいのだとか、そんなことばかり言って歩いて居ると言ふ事ではないか。けれどもわれわれはそんな事を咎めたり禁じたりする役人では無い。ただ税金を納めて貰ひたいものだ。併し、さういふ心掛けでは税金を拂ふ金もない道理である。お前がたの先生は税金なども納めない方がいいとでも言ふのかね?!」

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

そこで素直なペテロは、暫く考へてから、

「いやいや。イエスさまはそんな事を仰言いますまい。実は前にも一度、あなた方と同じことをイエスさまにお尋ねになった方がございました。それは学者たちとパリサイとサドカイの人々でございました。その方たちが、『あなたは税金は納めないでもいいものだと言ふのですか』とイエスさまにお問ひなさいました。その時、イエスさまは、先づ『ちょっとお金といふものをお見せ下さい』とさう申したものでございます。それからそのお金をお手におとりになって、その表に刻まれた王さまのお顔のところを、かういふ風に指でおさしになって、『これには王さまのお印がある。これは王さまのものだ。王さまのものは王さまに返せ！』と、さう仰言ったものでございます。」

「さうか。何にせよ、早く税金を納めよ。私たちはまた明日來る。明日もまた金がなかったなら、またその次の明日來る。」

王さまの役人たちはさう言ひ遺してペテロの家の戸口から外の家の戸口の方へ行ってしまひました。

ペテロは家のなかへ這入って、王さまの役人たちが今言ったことやら、自分が役人に答へたことやらをイエスの前に申し上げます。すると話の一什始終をお聞きになったイエスは、

「シモンよ、」と、かうペテロの名をお呼びになった。それから「私はお前にも聞きたいものだ。一たい世界の王さまたちは誰から税金や貢物をとり立てるのか、御自分の子供からか、それとも他の者からか？」

イエスは、ペテロのシモンにかうお尋ねになりました。そこでペテロが答へますのには、

「それは他の人からとるのでございます。」

するとイエスがまた申しますのには、

「さうか。それならば子供たちは出さずともいいのだ。さうして、われわれはみんな王さまの御子では無かったか。世界中の王さまたちはふだん何かにつけて御自分でさう仰せられるではないか。」

かう言って、後に棘の王冠を戴いて不思議な王さまにおなりになるやうになったこのお方は、ペテロの顔をごらんになったまま、默っておしまひになりました。けれども、しばらくして重ねてペテロのシモンに申しますのには、

「けれども、今の場合、われわれが若し税金を納めなかったとしたならば、王さまの役人どもは定めし王さまからお咎めを受けることにならう。けれども私には金はない。またお前にも金はない。それからわれわれの父——何一つ持って居ないといふ筈のないわれわれの父にも金はない。

何故かといふのに、金といふものはみんな人間の王さまがお拵らへになつたものだからだ。それはわれわれの父である創造主のつくつた以外のものだ。シモンよ。そこでわれわれはお金をどうかして手に入れなければならない。かうしよう、お前は湖へ行つておいで。さうして釣をするのだ。初めて鈎にかかつた魚の口を啓いて見よ。そこに一枚の金が這入つて居る筈だから。その金を私とお前との分として王さまの役人たちに納めようではないか。さうでもするより外には仕方がない。」

成程、若しその魚の口のなかに一枚の金が這入つて居るほどなら、シモンは魚を釣るぐらゐのことは全く手もないことでした。と申しますのは、カペナウンの町は直ぐ、美しいさうしてお魚や貝などのどつさりあるガリラヤの湖と隣同士であつたからです。それにはなほ又、ペテロのシモンはもともと漁師であつたのです。さうしてその初め、いつぞや兄弟のアンデレと二人で湖のほとりに網を打つて居るところを、ちやうどお通りかかりになつたイエスは、シモンとアンデレとこの二人の兄弟がさも睦じさうに漁の分け前を互に譲りあひながら分けて居るさまをごらんになつた時、一目で、その兄弟は心の正しい人たちであることをお知りになつて、「漁り人たちよ、私はお前がたに人間を漁る人になつてもらひ度いと思ふ。」と、イエスはかう美しい優しい面白い言葉をかけられたのでした。かう言はれてシモン兄弟はその場に網をなげすてて、この、人をひ

きつける美しい優しい言葉をかけた人、さうして人をひきつける美しい優しい力を持ったこの不思議な見ず知らずの人のあとにすぐさまついて行ったものでした。それほど素直な心のシモンは、「……お前は湖へ行っておいで。さうして釣をするのだ。初めて鈎にかかった魚の口を啓いて見よ、そこに一枚の金が這入ってゐる筈だから……」

と、さうイエスから言はれたとき、早速釣道具をもって湖の方へ大いそぎで出かけて行くのでした。

家のなかに遺ったイエスは、ひとりで考へつづけました——御自分の父の考へていらっしゃる町とさうしてこのわれわれの地球の上にあるところの町と、この二通りの町の相違を。金といふもので建てられた町と、金といふものが全く無しで建てられた町と。イエスは目を上げて、窓から、高い空の方を見ました。イエスは青くかがやいた空を見つめながら、愛が金の代りになる町のことを考へつづけました。おお、そこでは人々は今金を欲しがるやうに愛を欲しがる。金の沢山ある人が今敬はれるやうに、愛の沢山ある人が敬はれる。金の代りとして、すべてのものの代價には愛が仕拂はれる。人々は愛の足りない他の人々に愛を借す。他の人はその人の愛に利子をつけて返す……。イエスはこんな風にそれからそれへと考へつづけて行くのでした。

その間にペテロはキリストのお言ひつけどほりに、湖の方へ歩いてまゐりました。さうしてけ

ふは以前のとほりに魚の漁り人であるペテロは、口をあけると一枚の金が出てくるといふ珍らしい魚を釣り上げようものと、明るい空の下で、刺のあるケーパアの木の茂みに足をひっかかれまいと氣をつけながら、いつも春でいつも花ざかりの野薔薇や、美しい櫻樹のこんもりとしたたのしい蔭を択んで、大きな池のやうに優しく、廣々とした心のやうに柔和な湖の片隅に腰をおろしました。靜かな水のおもてには四方の景色がみんなさかしまに、ほんたうのものよりも一層美しく透みきってうつって居ります。呼べば答へるほどの遠さに、青い水の上にゆったり浮んで連ってゐるゲネサレの野辺やら、ヨルダン河の河口やらを、見なれた景色ながら、ペテロは今さらなつかしさうに一とほり見渡してから、うまい手つきで、釣の糸をさざなみもない水の上に投げます。ぽちゃりともの靜かな音がして、水の上にうつった櫻樹の枝のさかさな影が水の波紋ですこしゆれ乱れると、糸はする〳〵と水のなかをくぐりながら、下の方へ下の方へと深くおりて行きます。

Ⅱ

「お前は湖へ行っておいで。さうして釣をするのだ。初めて鈎にかかった魚の口を啓いて見よ。そこに一枚の金が這入ってゐる筈だから……」

かう、イエスがペテロにむかつて仰言つてゐられたのと、殆んど同じ時刻のことでございました。

マグダラ、ダルマヌタ、カペナウン、ベッサイダ、コルヂンなどといふこの近在の町や里ぢゅうで第一ばんの金持と言はれてゐる人で、同時に一ばんの手きびしい高利貸だといふので評判の、或る男が、ガリラヤの湖に沿うた或る場所を、驢馬に乘つて歩いてくるところでした。けれどもこの高利貸は、湖のほとりの優しく平和な景色を見ようと、このあたりを遊山に出て來たのではありません。その証拠には、この高利貸はひどく不機嫌さうな顏つきをして、苛立たしく驢馬をせかせてゐるではありませんか。

それもその筈です。王さまのお役人たちが、税金を集めようと、もうこのあたりの町や里へ廻つて來たといふことを知ると、高利貸の方ではそのお役人たちが家々をまはるよりさきにもつと手廻しよく、もう約束の期限の切れかかつてゐる金の借り主たちの家々を一とほり歩いて置かなければならないので、遊山どころか、全く氣が氣ではなかつたのです。それ故かうして毎日、朝早くから夕方まで、町やら近在の里やらをせはしく駆け歩いてゐるのでした。と申しますのは、王さまのお役人たちは人々の金まはりがよくなる季節を見計らつては税金をとり立てて歩くのです。さうおきめになつたのは王さまのお情けでした。ところで高利貸の方でもまた人々が金の這

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com